

**私**が進学した大学院は東北大学の木村正行先生の理論の研究室であった。そこでは構文解析やそれを使ったコンパイラ・コンパイラの研究を行った。当時電子技術総合研究所におられた北陸先端科学技術大学院大学の二木厚吉先生や奈良先端科学技術大学院大学の学長であられた鳥居宏次先生のご推薦で同研究所の言語システム研究室(鳥居研究室)に入所した。この間スイス連邦工科大学(ETH)に助手として1年間滞在し、構造エディタの開発に携わった。

その頃OSIが話題になっていた。そして情報処理相互運用技術協会(INTAP)にかかわる仕事を行うようになった。そこで用いられる通信プロトコルの1つであるCCRという並列トランザクションを処理するプロトコルを、形式記述言語LOTOSで書き、LOTOSの処理系での検証を試みた。LOTOSの処理系のインストールには構文解析や属性文法の知識が役立った。論文だけの話ではなく、実際に使われていることにいたく感激した。

INTAPでは企業の事業部系で通信プロトコルの開発に実際に従事している方々と直接接することができ、アカデミアとはまた一味違う切った張ったの厳しい世界だなと思った。

研究で楽しい時期は一瞬で終わり、45歳くらいからは研究所の改革や、産業技術総合研究所への移行などにかかわり、また若い研究者に研究予算を使っていたく仕事などをした。その時痛切に感じたことは、有能な研究者は放っておいても自ら研究を行う、ということである。つまり、マネージャは何もなくて良い、否、何もしない方が良い、ということである。

遅まきながら56歳で現在の大学に移った。

本会では情報規格調査会委員長もやらせていただいた。その頃はすでに大学に異動していたせい、アカデミアとはまた一味も二味も違う利害が激しく

ぶつかる世界だなと改めて感じた。

大学では、ソフトウェアの検証技術を、もう一度やってみている。一緒に仕事をしている留学生が非常によく動いてくれる。教育用ロボットでLEGO Mind storms EV3というのがあり、その上でJavaが動き、さらにその上では、古くから研究が行われているプロセス代数CSPもどきのJCSPというものが動く。CSPは並行システムのトレーサやデバッガとの相性もよく、これらを組み合わせれば衝突しない車の検証もできるかもしれない。見果てぬ夢かもしれないが、目に見えるシステムで実用的な検証を

応  
般

[シニアコラム]

IT好き放題



[No.49]

## やはりシステム検証が好き

やってみたい。いまどきの学生は検証結果が目に見えた方がやる気が出そうである。

その学生を見ていて思うのであるが、6年間に及ぶプログラムの修行を終えた後に留学してきている。日本人も有能な人はたくさんいると思うが、頑張らないとソフトウェア技術者もこのままでは外国に乗っ取られそうな気がする。

さあて、そろそろその学生がやってくる時間だ。

(2014年11月28日受付)



**大時和仁** Kazuhito OHMAKI

東洋大学

[正会員] ohmaki@toyo.jp

東洋大学総合情報学部教授。工学博士。電子技術総合研究所、産業技術総合研究所を経て現職。本会理事、情報規格調査会委員長などを歴任。本会フェロー。